

検討事項

◇外国人アドバイザーについて

①「日本の展望 2020（仮称）」を検討するにあたり、外国人アドバイザーにどのような役割を期待するのか

【一案】

－役割：査読の段階（来年2月めど）で、提言についてのコメントをもらう

－時期：学術フォーラムに講演者として御出席いただき、御意見いただく

（毎回の委員会では、御意見いただくのに十分な時間が確保できないため）

②外国人アドバイザー候補者の選定をどうするか

前回の委員会以降、委員から推薦があった候補者は以下のとおり。

※いずれも、渡辺副委員長からの推薦

○モンテ カセム（至善館学長）

○ロバート キャンベル（東京大学名誉教授）

○イリス・ヴィーツォレック（株式会社 IRIS 科学・技術経営研究所代表取締役社長）

※公表されているプロフィールは添付のとおり。

◇学術フォーラムについて

来年1月～3月に開催される学術フォーラムの企画案について、展望委員会委員から提案があった一件（渡辺副委員長より推薦いただいたもの）を本日の幹事会にてご検討いただいた。

詳細は別紙のとおり。

略歴（モンテ・カセム氏）

国際文化会館（アイハウス）は、国際理解促進を目指す民間の公益財団法人です。

[お問い合わせ](#) [アクセス](#) [会館概要](#) [プログラム部門](#) [施設部門](#)

[最新情報](#) [プログラム活動](#) [図書室](#) [出版・広報誌](#) [イベント](#) [EN](#)

[HOME](#) > [【第四期】第12回 モンテ・カセム「アジアの知の拠点として、日本はいかに世界に貢献できるのか」](#) (2011/12/3)

【第四期】第12回 モンテ・カセム「アジアの知の拠点として、日本はいかに世界に貢献できるのか」(2011/12/3)

講師プロフィール

モンテ・カセム（学校法人立命館副総長）

スリランカ・コロンボ生まれ。1970年、スリランカ大学建築学科卒業。東京大学大学院工学系研究科博士課程（都市工学専攻単位取得）（1982年）。スリランカ工学技術公団デザインに建築士として勤務後、マレーシア工科大学にて教鞭をとる。三井建設設計部（建築士）、AUR都市建築コンサルタント（地域開発計画）、国際連合地域開発センター（UNCRD）主任研究員などを経て、1994年より、学校法人立命館大学教授となり、以後、日本の教育現場にて後進の育成にあたる。学校法人立命館副総長、立命館アジア太平洋大学長を併任後、2010年より、現職。



[いいね！1](#) [ツイート](#)

PAGE TOP



PROGRAMS	ABOUT US	FACILITIES	アクセス
プログラム活動	国際文化会館とは	宿泊	お問い合わせ
図書室	ご挨拶	会議・宴会	
出版・広報誌	歴史	レストラン	サイトマップ
イベント	建物、庭園	ティーラウンジ	プライバシーポリシー
	会員制度	プライダル	閲覧推奨環境

〒106-0032 東京都港区六本木5-11-16,
電話：03-3470-3211 (企画部) / 03-3470-4611 (代表)

Copyright (C) The International House of Japan, Inc.

出典：公益財団法人国際文化会館HP
現在の役職：大学院大学至善館学長

略歴 (ロバート キャンベル氏)

ロバート キャンベル (Robert Campbell)

日本文学研究者。国文学研究資料館長。

近世・近代日本文学が専門で、とくに19世紀（江戸後期～明治前半）の漢文学と、漢文学と関連の深い文芸ジャンル、芸術、メディア、思想などに関心を寄せている。テレビでMCやニュース・コメンテーター等をつとめる一方、新聞雑誌連載、書評、ラジオ番組企画・出演など、さまざまなメディアで活躍中。

ニューヨーク市生まれ。カリフォルニア大学バークレー校卒業（B.A. 1981年）。ハーバード大学大学院東アジア言語文化学科博士課程修了、文学博士（M.A. 1984, Ph.D. 1992年）。

1985年に九州大学文学部研究生として来日。同学部専任講師（1987年、国語国文学研究室）、国立・国文学研究資料館助教授（1995年）を経て、2000年に東京大学大学院総合文化研究科助教授に就任（比較文学比較文化コース〔大学院〕、学際日本文化論〔教養学部後期課程〕、国文・漢文学部会（同学部前期課程）担当）。2007年から同研究科教授。2017年4月から現職。

社会活動

- 2012年～現在 公益財団法人鎮守の森のプロジェクト（旧称：瓦礫を活かす森の長城プロジェクト）理事
- 2013年 外務省 海外における日本語の普及促進に関する有識者懇談会
- 2014年～15年 国土交通省国土地理院 外国人にわかりやすい地図表現検討委員会
- 2014年～17年 文部科学省 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会教育課程企画特別部会委員
- 2015年～17年 文部科学省 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会言語能力の向上に関する特別チーム主査代理
- 2016年～現在 文化庁 文化芸術立国実現に向けて文化庁長官アドバイザーメンバー
環境省 国立公園満喫プロジェクト有識者会議検討委員
日米文化教育交流会議(The US-Japan Conference on Cultural and Educational Interchange：通称カルコンCULCON)日本語教育分科会(JLEC)委員
- 2017年～現在 文部科学省 中央教育審議会教育課程部会委員
九州大学経営協議会委員
九州大学グローバル化アドバイザーメンバー
東京国立博物館評議員会評議員
東京芸術文化評議会評議員

主な編著

- 『ロバート キャンベルの小説家神髄 — 現代作家6人との対話 —』(NHK出版)
- 『読むことのか — 東大駒場連続講義』(講談社)
- 『海外見聞集』(岩波書店)、『漢文小説集』(岩波書店)
- 『江戸の声 — 黒木文庫でみる音楽と演劇の世界 —』(駒場美術博物館)
- 『Jブングク — 英語で出合い、日本語を味わう名作50 —』(東京大学出版会)
- 『電子版黒木文庫』など

Robert Campbell, Ph.D., is a scholar of Japanese literature and the Director-General of the National Institute of Japanese Literature (NIJL), Tokyo.

Born in New York City, he studied in the Departments of Economics and Oriental Languages, University of California, Berkeley (B.A. 1981), and the Department of East Asian Languages and Civilizations, Graduate School of Fine Arts, Harvard University (M.A. 1984; Ph.D. 1992). Campbell moved to Japan to study Edo literature as a research student in the Department of Japanese Language and Literature, Kyushu University, Fukuoka City (1985), joining that department as assistant professor (1987). He then moved on to the National Institute of Japanese Literature, Tokyo (associate professor, 1995), and relocated to the University of Tokyo in 2000, where he taught as professor from 2007. His tenure as Director-General of NIJL began in 2017.

Robert Campbell's research centers on the sinological literature, art, media and



intellectual discourses of late Edo and early Meiji period Japan. Besides editing and contributing to numerous volumes on Japanese literature, art and drama, he is active in the Japanese media as television host, news commentator, newspaper columnist, book reviewer and radio personality.

Copyright © 2019 Robert Campbell. All Rights Reserved.

出典：ロバートキャンベル公式サイト

略歴 (イリス・ヴィーツォレック氏)



アクションなしのビジョンは空想です。
ビジョンなしのアクションは悪夢です。

弊社の目的

ポートフォリオ

クライアント

ニュース

お問い合わせ

目的

原則

経験

「IRIS科学・技術経営研究所」はコンサルティング会社であり、社名である「IRIS」が「International Relations In Science」を指すように、サイエスマネジメントと、サイエンス分野における国際連携支援事業を専門としています。主な事業内容として、学術研究を取り巻く環境における戦略、組織、人材育成、評価、国際的な共同研究（日欧に特化）、そして、研究のマネジメントに関するアドバイス、サポート、コーチングを行います。また、科学・技術研究機関等の経営の分野において、国際的なベストプラクティスを評価するシンクタンクとしての役割を担っています。

- 国際的な経験に立脚した専門かつ客観的見解を提供しています。
- 期間限定の包括的業務提供、またはプロジェクト単位の顧問契約可。
- 弊社サービスは、日本語、英語、ドイツ語で提供させていただきます。

代表者: Dr. Iris WIECZOREK (Dr. I. ヴィーツォレック) (see 経歴)

東京で株式会社IRIS科学・技術経営研究所を設立。日本との25年にわたる経験、さまざまな国々のアカデミアやサイエンス分野に関する広範な知識、研究者としての内側からの視野と助成機関の立場からの視野を持つ。サイエスマネジメントの活動に関わる中で、[ドイツ研究振興協会 \(DFG\) 日本代表部](#)を東京に設立、4年間代表を務める。日本とヨーロッパのサイエンスコミュニティにおける広範かつ信頼できるネットワークを基盤に事業を展開。他に、国際比較に見る日本の経済・科学におけるイノベーションプロセスやネットワークに関する多数の学術論文を発表。ハンブルグ大学では、日本学・中国学・コンピューターサイエンス専攻し、博士号を取得。



出典：株式会社IRIS科学・技術経営研究所HP

日本学術会議主催学術フォーラム
「持続発展的な未来社会を考える－日本の展望 2020 に向けて－」の開催について

1. 主 催：日本学術会議
2. 共 催：調整中
3. 後 援：調整中
4. 日 時：令和2年2月●日（●）
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会等の開催：調整中

7. 開催趣旨：

日本の展望 2020（仮題）の検討における中心的テーマである持続発展的な未来社会について、検討内容とその関連内容の講演を行い、それらの講演をもとにパネル討論にて日本の未来社会を議論する。

8. 次 第：

- 講演 1. 日本の展望 2020 の検討状況と問題提起 遠藤 薫
 - 講演 2. 日本の人口縮小社会の歴史的な位置づけ、その課題と挑戦 金子隆一
 - 講演 3. 人口動態を変える人間の生殖の未来 石原理
 - 講演 4. これからのグローバル経済と日本の経済 経済学委員会から
 - 講演 5. 平和と人権 町村敬志
 - 講演 6. これからの都市と地方 馬奈木俊介
- パネル討論 上記講演者あるいは展望委員会委員から選出

（下線の講演者は、学術会議関係者）